

(6) カ キ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
うどんこ病 (<i>Phyllactinia</i>)	①発病した園は、落葉をできるだけ早く集めて適切に処分する。 ②黒粒状の子のう殻が付着した枝は、剪定時に除去し、適切に処分する。 【参考事項】 子のう殻は罹病葉上に形成されるが、葉から離れて、地表面や枝、幹に付着して越冬する。  写真1：被害葉
落葉病 円星落葉病 (<i>Mycosphaerella</i>) 角斑落葉病 (<i>Cercospora</i>)	①落葉を適切に処分する。 ②密植園は間伐する。 【参考事項】 落葉の病斑組織内で菌糸や菌糸塊で越冬する。 樹勢の衰えた園で多発する。 5月上旬～7月上旬に降雨が多い年ほど多発する。  写真1：円星落葉病
炭疽病 (<i>Glomerella</i>)	①冬期剪定時に病枝を切り取る。 ②発病期にも病枝や病果を取り除く。 ③密植園は病気がでやすいので間伐する。 ④防風林、防風垣を設置する。 【参考事項】 枝の病斑部、落葉跡、芽などに病原菌が潜在して越冬する。 「富有」に発生が多い。  写真1：被害果
黒星病 (<i>Fusicladium</i>)	①冬期剪定時に病枝を切り取る。 【参考事項】 枝の病斑部に菌糸で越冬する。「次郎」に発生が多い。
灰色かび病 (<i>Botrytis</i>)	①落葉を処分する。 ②密植園は間伐する。 ③排水を良好にする。 【参考事項】 落葉上で菌糸や菌核の形で越冬する。春に分生子を形成し、風や降雨によって飛散する。

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
カキクダアザミウマ	①冬期に粗皮削りを行う。 ②被害葉（巻葉）は、見つけ次第除去する。 ③光反射シートを樹冠下に設置して、飛来を防止する。 【参考事項】 成虫で越冬（粗皮間隙）する。年1回発生する。 写真1：被害葉 写真2：幼虫
チャノキイロアザミウマ	①不定芽の伸長した柔らかい葉での増殖が多いので、それらを残さない。 ②冬期に粗皮削りを行う。 【参考事項】 成虫又は蛹で粗皮下、落葉下、浅い土壤中で越冬する。 年7～8回発生する。 ほ場近くのチャやイヌマキなどは寄主植物となる。 写真1：チャノキイロアザミウマ成虫 写真2：果実の被害
カメムシ類	①防虫ネット（4mm目合い）で園全体を被覆する。 ②チャバネアオカメムシに対して黄色蛍光灯は忌避効果がある。 ③下草や周囲の雑草管理を徹底する。 【参考事項】 成虫で越冬する。幼虫はスギ、ヒノキなどで育ち、成虫が果樹園に移動して加害する。越冬成虫が多い年は、早期落果が多くなる。 写真1：チャバネアオカメムシ 写真2：ツヤアオカメムシ 写真3：果実への被害

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	
フジコナカイガラムシ	①バンド誘殺を行う。 ②冬期に粗皮削りを行う。 【参考事項】 主に2齢幼虫が枝の粗皮の間隙、芽の鱗片中越冬する。 年3回発生する。	  写真1：雌成虫 写真2：果実のヘタ部への寄生
オオワタコナカイガラムシ	①バンド誘殺を行う。 ②冬期に粗皮削りを行い、ほ場を清潔にする。 【参考事項】 3齢幼虫で越冬する。年1回発生する。	
ツノロウムシ	①剪定時に除去する。 【参考事項】 雌が成虫態で1～2年生枝で越冬する。年1回発生する。	
カキノヘタムシガ	①9月上旬～中旬頃に、古布などを枝に巻き付け、バンド誘殺を行う。 ②冬期に粗皮削りを行い、ほ場を清潔にする。 【参考事項】 粗皮の下や割れ目の間に繭を作り、前蛹で越冬する。年2回発生する。	
カキホソガ	①寄生蜂や捕食性天敵を保護し、密度抑制に利用する。 【参考事項】 成虫で越冬する。年5回発生する。	
ハマキムシ類	①寄生蜂や捕食性天敵を保護し、密度抑制に利用する。 【参考事項】 幼虫で越冬する。年4～5回発生する。	
イラガ類	①冬期に粗皮削りを行う。繭をつぶす。繭を見つけ、捕殺する。 【参考事項】 枝、幹に前蛹（繭）で越冬する。通常は年2回発生する。 イラガ、ヒロヘリアオイラガは樹上の繭で、ヒメクサイラガは土中の繭で越冬する。	